

平成28年度 設楽ダム森林資源有効活用検討業務

委託元:国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所 調査実施:(公社)東三河地域研究センター

1. 目的

- ・本業務は、設楽ダム建設事業により発生する森林資源について、関係行政機関協力のもと、森林伐採による木材市場への影響や地域振興効果を考慮し、現地踏査に基づいた材の付加価値化(価値向上化)、伐採コストの縮減化に着目した実証実験の分析を行った。特に材の付加価値化では、全木の価値化の点から、非有価木の利活用に資する実証実験(枝葉等の価値化)を行い、事業化や周辺地域への展開について検討し、昨年度の設楽ダム森林伐採計画(案)の見直しを行った。
- ・同計画(案)が、地域振興や産業振興に繋がるよう、関係行政機関からなる「設楽ダム森林資源活用プロジェクト会議」にて、会議資料作成及び運営補助を行った。

2. 現地踏査

目的

- ・設楽ダム建設予定地を対象に、材の価値向上化が図れる手法として**立木売払方式**を想定し、愛知県所有の「森林簿」を活用し、現地踏査による作業道等の確認、プロット調査による分析等を行って、**導入候補地**を選定した。

結果

- ・現時点ですぐに**立木売払の導入が可能な候補地**を抽出した。また、**既存道路等がなく搬出が難しい候補地等**についても、今後、立木売払方式の導入ができる環境を整えるように、伐採計画(案)を見直した。

3. 森林伐採実証実験

目的

- ・材の価値向上を図るため、**立木売払方式**のデータ収集と分析を行い、**立木売払がより進むような改善方法**を検討した。

改善案の検討結果

- ①立木売払の一環で、大型林業機械等による伐採を進められれば、**A・B材の価値向上化に併せたC・D材の価値向上化**を進めることができ、伐採面積を広げられる。
- ②**仕様書等の改善案**(入札時期、物品を引き取る期間、作業時間の変更、土場整備の充実化)

4. 非有価木活用実証実験

チップの乾燥化による実証実験

目的

- ・チップ燃料(C・D材利用)の**乾燥度合いの向上による価値化**について、**加温式、非加温式(自然乾燥)**の方法でチップを乾燥させ、**地域での利用価値**の高い効率的な方法の可能性を検討した。

結果

- ①**チップ使用量の多い設備で、広大な用地が確保**できれば、自然乾燥でもチップを効率的に乾燥できることを確認できた。
- ②**チップ含水率の低い設備**(ガス化発電等)であれば、利用価値を高められそうであることを確認できた。

枝葉の蒸留化による実証実験

目的

- ・枝葉の非乾燥状態を利用し、高付加価値で需要が期待できる**精油抽出**を**簡易型蒸留装置**を利用し、**地域住民等と連携**した実証実験を行い、全木活用による林業の価値化と地域振興の方向性を検討した。

結果

- ①**簡易型蒸留装置でも一定の成分を得られる精油**を抽出できることが確認できた。
- ②**精油抽出に対して参加者が高い関心**を示し、地域発の事業創出の可能性あることを確認できた。

5. 設楽ダム森林伐採計画(案)の見直し

目的

- ・地域材(主に用材もしくはA・B材)の価値向上方法として**立木売払方式**を位置づけ、当該方式をできるだけ多く導入できるように、現地踏査や実証実験を踏まえ、森林伐採計画(案)を見直した。

今後の取組方向

- ①立木売払方式(A・B材の価値向上化)の仕様書改善案に基づいた実証実験の実施
- ②立木売払方式(C・D材の価値向上化)の実証実験の実施